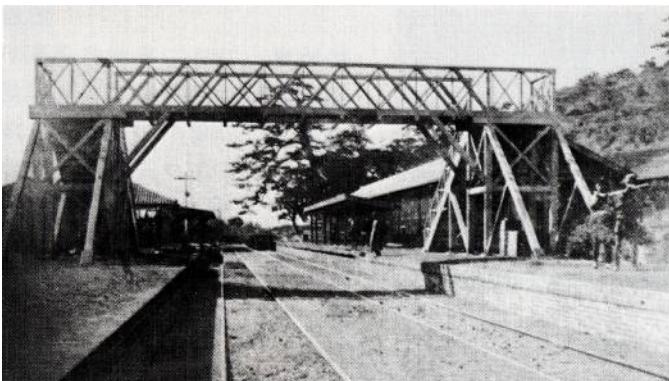




定刻の6:14に国府津駅(こうづえき)に到着しました。国府津駅は、神奈川県小田原市にある駅ですが、関東地方では唯一、JR 東日本と JR 東海の両方の列車が発着する珍しい駅です。



「開業当時の国府津駅」明治20年(1887年)

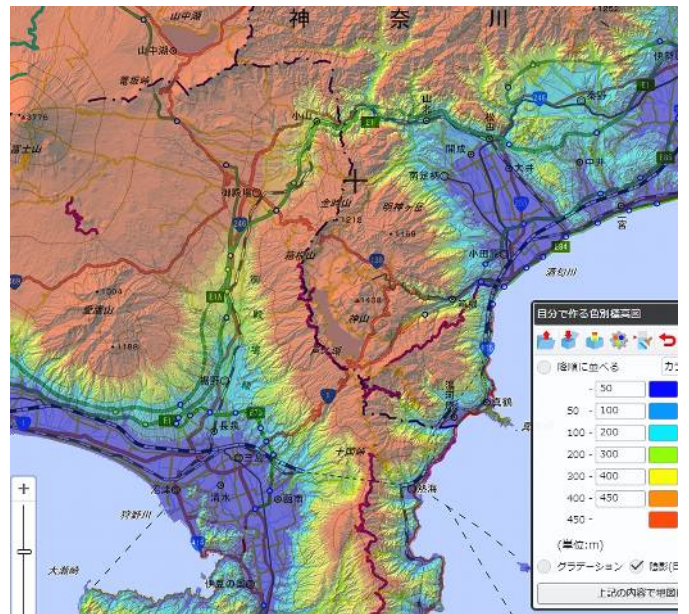
『日本国有鉄道百年写真史』より

現在の国府津駅は、東海道本線と御殿場線の分岐駅である、小さな駅に過ぎません。しかし、開業から昭和9年までは、東海道本線でも非常に重要な駅の一つでした。現在の御殿場線は、国府津～御殿場～沼津間を、「箱根外輪山」を迂回するような形で走るローカル線です。しかしかつては、この御殿場線こそが、東海道本線の本線でした。静岡・名古屋方面に抜けるには、国府津～小田原～熱海～沼津という、伊豆半島の北端を横切ったほうが距離的には近いですが、しかしこの間の熱海～三島間には急峻な山岳地帯が南北に横たわり、長大なトンネルの掘削が必要です。明治～大正の土木技術ではこのトンネルの開通は不可能と考えられ、東海道本線は長らく御殿場経由だったのです。

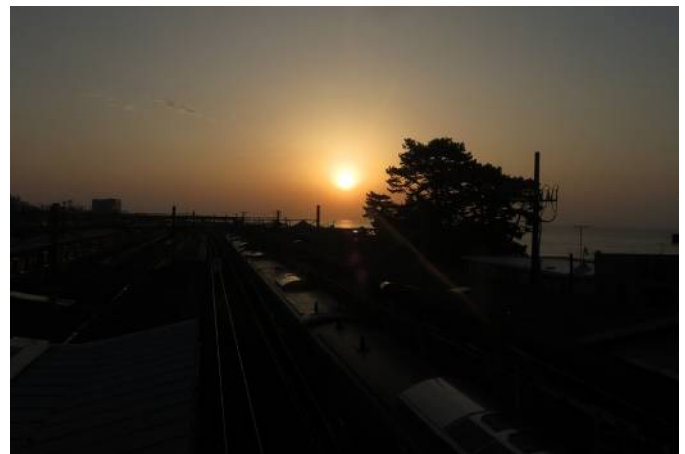


「開業当時の国府津駅前」記念切符の挿絵より

国府津駅開業当時は、国府津～小田原～熱海間の交通は、国府津駅前から発車していた小さな路面電車のような鉄道が担っていました。もちろんそれでも熱海経由では沼津方面へ行けませんでした。



これは国府津～沼津付近の地形図(色別標高図)です。どう見ても伊豆半島が邪魔です。私が当時の鉄道省の役人で、この地形図を見ていたら、東海道本線の路線候補は、やはり御殿場経路を選択したでしょう。



国府津駅の乗り換えで跨線橋を通ると、相模湾から昇る日の出が見えました。この旅行で海が見えたのは、大磯付近の車窓と、この国府津駅からだけでした。